



【北海道森林管理局のHPもご覧ください】



【はじめに】

気候変動に伴い、森林の地球温暖化防止や洪水・土砂災害の防止といった機能への関心が高くなっています。そしてこれらの森林の機能の発揮のためには、適切な森林整備・保全と、「伐って、使って、植えて、育てる」の循環の確立が必要です。また、野生動植物の生息生育の場として生物多様性の保全や文化の伝承・振興などの機能も発揮させていくことが必要です。

北海道森林管理局では、これら森林の公益的機能の発揮に必要な森林整備・保全、森林整備に伴い生産される木材の安定供給、これらを通じた民有林への技術の普及による林業・木材産業のグリーン成長などに向け、以下について重点的に取り組み、北海道の林業・木材産業、また、地域の振興に貢献してまいります。

【重視すべき機能に応じた森林の整備と保全】

森林の機能や個々の森林の状況は多様であり、それぞれの森林の自然条件や社会的条件によって森林ごとに重視すべき機能に応じた森林づくりに取り組みます。

具体的には、人工林では、森林整備により多様な樹高・樹種からなる森林へ誘導します。その際

効率的な施業の実施に適する人工林は、高性能林業機械による効率的な施業を実施します。

また、優れた景観や豊かな自然環境を有する森林については、自然の推移に委ねる管理を行うなど、適切に保護・管理を行います。



【写真上段】

羅白湖展望台から望む羅白湖と奥にそびえ立つ知西別岳湖の周囲（周囲長は約4km）では、夏は高山植物のチングルマやワタスゲ、ミズバショウの花が咲き、秋は草紅葉が広がるなど、季節ごとに異なる表情を見せます。

【写真下段】

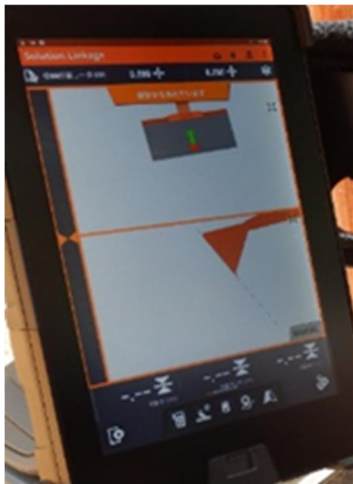
左：天然林 中央：シマフクロウ 右：レブンアツモリソウ

【安全・安心なくらしの確保】

気候変動により近年自然災害が激甚化、同時多発化しており、集中豪雨による被害が発生しています。

このため、山地災害箇所の迅速な復旧とともに流域治水とも連携した森林の防災・保水機能を発揮させる治山施設の整備を推進します。

また、担い手が不足する中で着実に事業を実施していくため、森林土木事業の生産性向上のための ICT 化と軽労化・工期短縮等の取組を推進します。



土木機械と設計図が連携することで作業すべき位置を運転席でモニターしながら作業可能

【「新しい林業」の推進】

伐採から再生林・保育までの収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」の実現、林業従事者の確保に向けて、森林整備における丸太の生産性の向上、造林の軽労化や下刈りの省略などに取り組めます。また、これらの成果について、「特に効率的な施業を推進する森林」での現地検討会や HP 等による発信により民有林関係者等への普及・定着に取り組めます。



生産の各工程について毎日の事業の進捗状況を入力。解析ツールでグラフ化した際にグラフがへこんでいる部分がボトルネックに当たる。

加えて、人工林が成熟し主伐面積が増える中、コンテナ苗の安定需給協定や主伐から再生林までを一括した契約の推進により、苗木の確保と確実な再生林の実施を図ります。



【安定供給等による道産材の需要拡大】

ゼロカーボン北海道など脱炭素社会の実現に向け、木材利用への関心が高まっているものの、道産材は、建築材としての利用が低位であり、住宅に加え、非住宅建築物の木造・木質化による需要の拡大が必要です。

一方、原木の搬出トラックは運転手不足等により輸送の支障が生じるおそれがあるため、輸送の効率化が課題となっています。

このため、建築材への需要拡大に向けた大径材等の供給や安定供給に向けた中間土場の整備のほか、庁舎への木材利用を通じた PR や関係機関との連携により需要拡大を図ります。



庁舎に木材を利用した森林技術・支援センター
(令和6年2月完成)

また、治山・林道事業での木材利用や林地残材の供給による木材全体の需要拡大にも努めます。



土木事業においても木材を利用し、木材利用をPR

【広葉樹資源の安定供給体制の構築】

外国産広葉樹丸太の輸入が困難となる中、広葉樹を利用する地域産業の需要者からは広葉樹材の持続的かつ安定的な供給を望む声が高まっています。

このため、人工林の整備に伴い伐採される広葉樹について、山元において需要ニーズを踏まえた採材・仕分けを行い、銘木市への出品を積極的に行うなど、より付加価値を高めた原木の供給に取り組めます。

また、人工林に生育する広葉樹を活用した多様な森林づくりによる広葉樹資源の育成を図るとともに、持続的な広葉樹の供給を目指し、過去に伐採や植付けを行うなどした天然林において試行的な施業を行います。



樹群択伐天然更新施業の試験地

風倒木に起因する天然更新を模倣し、伐採後に伐倒木の根を横転させて地表に凹凸を形成

【地域への貢献】

山間部をはじめとして人口減少が進行し、持続的な事業実施に必要な人材の確保が、官民間わず

懸念される状況となっています。特に、即戦力の育成に加え、将来の官民の担い手となる世代に対し森林・林業分野への関心を得ることが喫緊の課題となっています。

このため、市町村林務担当者の研修受入れや民有林行政の課題に応じた技術的支援などによる民有林行政への協力・支援のほか、森林・林業・木材産業分野の人材の確保に向けた魅力の発信にも取り組めます。



国有林の事業実施地においてリモコン式機械による下刈りの実演会を実施

また、長期にわたる事業計画を立てることができ、樹木採取権の設定により、経営の安定化を通じた林業従事者の確保に寄与するとともに、講師の派遣等による人材育成への支援を行います。

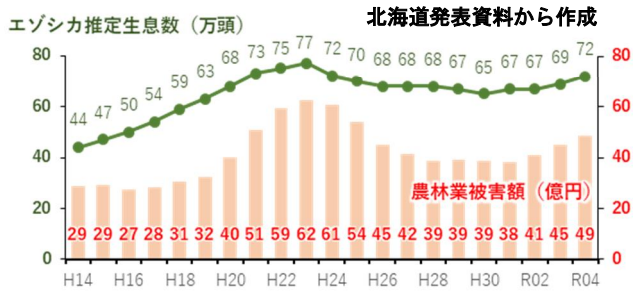


市町村による森林整備計画の策定に向けた森林調査の実施について支援

【森林病虫獣害への対策】

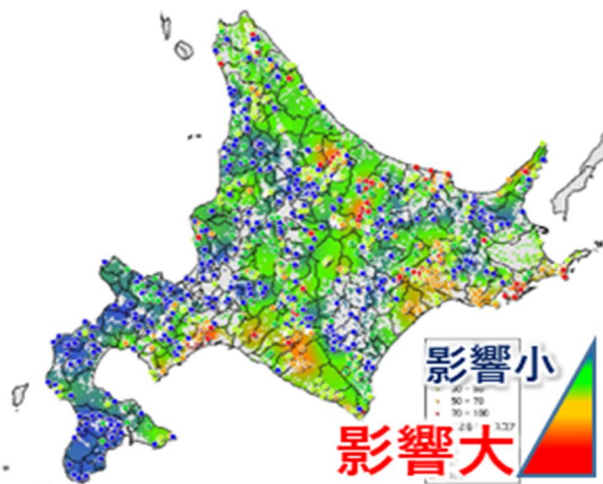
エゾシカをはじめとして道内の森林病虫獣害被害は拡大が懸念されており、広い森林地域での

エゾシカの捕獲は、関係機関が連携し効率的に実施する必要があります。



このため、北海道や地元自治体と連携し情報の共有、市町村が捕獲を行うためのフィールドの提供、ワナの貸し出しのほか、エゾシカの被害実態調査、IoTやAI技術の導入、大型囲いワナの普及により、エゾシカ捕獲の効率化及び省力化に取り組めます。

【簡易チェックシートによる影響評価マップ】



【アイヌ文化の振興】

アイヌ文化を象徴する北海道古来の森の保全・再生やアイヌ文化の伝承に必要な自然素材を持続的に供給できる森林づくりに地元自治体や関係機関と連携して取り組みます。

併せて、アイヌ施策推進法に基づく地域計画の実行に向け、林産物の供給、アイヌ文化の体験場としてのフィールドの提供又は国有林の活用を地元自治体等と連携して実施するなど、アイヌ施策の推進に取り組めます。



北海道古来の森（イメージ）



アイヌ文化の振興のための資源の供給
山土場での広葉樹素材の選定作業（日高町門別地区三和国有林）

【最後に】

北海道森林管理局では、これらの取組のほか、様々な事業の実施を通じて、CO₂ 森林吸収源対策や生物多様性の保全の推進、さらには、持続可能な地域社会の実現に向け取り組んでまいります。

また、参加者を公募し実施する現地見学会や森林ふれあいイベントの開催を各種予定しているほか、森林・林業普及のための様々なコンテンツの発信を予定しております。

詳しくは、北海道森林管理局ホームページをご覧ください。